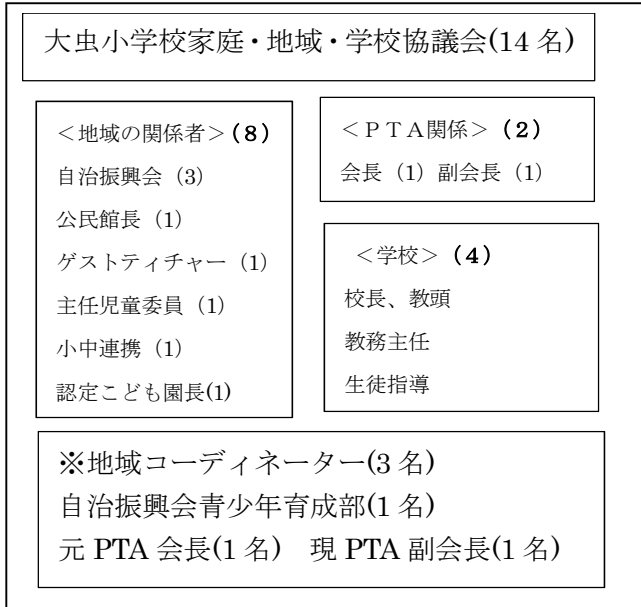


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 開催回数 (年3回)
- 開催日程・協議内容
 - 6月 今年度の計画について
情報交換
 - 12月 学力学習状況調査
体力調査、生徒指導
情報交換
 - 2月 学校評価について
情報交換
- 保育園・幼稚園・中学校との連携
各教育機関関係者との情報交換
を密にして連携を図る。

(3) 協議会における成果と課題

地域と学校が関連している行事(地区体育大会・地区文化祭等)について、効率的な運営の方法について話し合った。また、学校評価の結果を踏まえ、今後、家庭、地域、学校が担うべき役割について意見交換をした。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 児童が大虫地区の振興会が主催する行事に参加し、地域に伝わる歴史や文化にふれることで、ふるさとのよさを再認識し、ふるさに誇りや愛着を感じることができるようにする。
- 地域の方々とふれあいながら、自分達が地域からどれだけ愛され、慈しまれているかを認識し、児童自身もいずれ大虫地区のために貢献できる人間になろうと決意できるようにする。

(2) 活動の実際

「さがして歩こう大虫の宝(4.5.6年)

『さがして歩こう大虫の宝』は、毎年1回地区振興会主催で行われてきた地域の行事である。年齢や性別も様々な参加者が毎年別のコースを歩いて巡り、それぞれの地区の歴史研究者や区長がその場所の歴史や伝説などを説明する。全部で6コースあり、1年で1コース回り、6年で大虫地区全体を網羅することになっていた。毎年この行事に参加してきた児童もいて、地域の方のみならず大虫地区外に居住されている方の参加もある。地域について調べてみたいという児童からの要望もあったため、昨年度から、この行事に児童や保護者も参加し、地域の歴史や文化に触れる体験をすることになった。本年度は「大虫町・大虫本町コース」にある史跡や文化財を、4年生～6年生児童と保護者が異学年縦割りのわくわく班に分かれて、ウォークラリー形式で探索することとなった。当日は児童、保護者合わせて約300名が参加する大きな行事となった。

5年生の児童は、事前に各文化財や史跡に関してインターネットや文献で調べ、当日各ポイントでの解説を行った。地区の寺院の方、神社の総代の方の補足説明もあり、児童や保護者、地域の参加者は大虫町・大虫本町の文化財や史跡に関しての見識を深めることができた。地域に居住していながら見たことがなかった物や知らなかったことがあることに気づき、よい体験をしたと感想を述べられる方が数多くいらした。ウォークラリーのポイントでは、クイズに答えたり、4年生が工夫したゲームをしたりして交流を深めた。グループ全員で協力してゴールである本校体育館を目指した。

ゴール後は体育館で、見てきた物や感じたことを親子で俳句に表す大句会を開催した。作品は後日、公民館で俳句の講師をされている地域の方にみていただき、句評もいただいた。保護者と児童の作品は地区文化祭で展示し、地域の方々にも見ていただく機会を設けた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

今年度もおおむし振興会青少年育成部主催の「大虫の宝」という事業に学校も参加したいという意向を振興会育成部長に伝えたところ振興会と学校の橋渡し役をしてくださった。最初は教頭が窓口になり地域コーディネーターと事業の内容の骨子を組み立て、校内で検討した。校内での検討会にも積極的に地域コーディネーターが参加し、いろいろと助言をいただいた。また、コースの設定や回るコース順なども一緒に考えてくださる等、あらゆる面でのサポートをしていただいた。当日も児童の安全面を最優先にとの考えから、交通指導の方々にも声かけをしてくださった。こうして、万全の態勢で臨むことができた。

(4) 特に工夫した事項

家庭・地域・学校の一体感を出すために昨年度はTシャツを購入したが、今年度は、のぼり旗を作成・購入した。ウォークラリー時には、コース各所にこののぼり旗が設置され、目印になるとともに、全体の雰囲気が大いに盛り上がった。また、今年度も児童がデザインしたTシャツを教職員が着用した。地区振興会の方にも着用していただき、教職員と地区振興会の方との一体感が生まれ、協力して行事を行っていることを地域の方々にも知っていただくことができた。

開会式は地区振興会の方が中心になって進行をしてくださった。閉会式は児童が進行した。閉会式では、地区振興会の方から参加賞をいただいた。地域と学校が共催という形でそれぞれが役割を分担して実施することができた。保護者の作った俳句を地区文化祭で展示したことも地域に活動を理解していただく良い機会となった。

(5) 成果と課題

地域と進める体験推進事業2年目ということで、昨年度の実績を踏まえて、計画的に運営することができた。地域との結びつきもさらに深められたように思う。来年度は、持続可能な行事にしていけるため、地域と学校の役割を明確化し、効率的に運営できるようさらに工夫していきたいと考える。

